

<https://www.maidama.com/>

古代舞靈研究所は、縄文時代をはじめとする古代・神代の舞や踊り・各国のネイティブダンスの精神性や魂について、現代人の身体やDNAの中に眠る記憶をもとに、研究しています。

『舞靈(まいだま)』というのは造語です。

日本には「言葉に魂が宿る」という考え方から『言靈』という美しい言葉があります。言霊という考え方が存在するより以前の、文字が存在しなかった時代、人は身体の形や動きの中に魂を宿し、何かを伝えていたのではないかと考え造った言葉です。



時を超え紡がれる『祈りの舞』

太古・原初の人々は
しっかりと大地に根ざし天を仰ぎ
二つをつなぎ、それと森羅万象とをつなぎ、織り成しました。
常に自然を敬い平穏な日々を願う「祈り人」でした。

『祈りの舞』とは、

彼等の様に天空と大地をつなぎ 祈り 全てを尊び 愛し 癒すこと。
母なる地球のために、それらを私達の身体を通して舞うことなのです。

命への無限の喜びと感謝とともにこの世界の平和と幸せを祈り、寿ぎの舞を捧げます。

原始舞踊のひとつの形である祝祭の舞です。

曆舞 (こよみまい)

太古の賢人達は類稀なる観察力を用い、太陽・月・地球・そして億千万の星々を観察しました。

その結果、全ての天体は正確無比なる法則のもと運航していることを発見しました。私達は、太陰曆・太陽曆という形で彼らの発見した法則の恩恵を授かっています。

日本には美しい四季があり、曆には煌びやかな言葉で彩られた二十四節気・七十二候などという節目があります。

この曆の節目々々において、気温 湿度 天候 その節目特有の風景 刻一刻と変化する感覚、それらを自我を経由することなく自身の肉体に降り立たせ舞い踊ります。それが《曆舞》です。

レッスンではいくつかの型を学び丹田力を高めると同時に身体エネルギーを整え、フリーダンスによって森羅万象と自らの身体をつなぎます。

命は神であり、わたしたちは皆その体内に宇宙と神を住まわせています。
舞うことは祈り、祈りは命への賛歌です。

新月舞

毎月朔日開催の「曆舞 新月」は旧曆の月初めを寿ぎ 皆様の健康と平安をお祈りし、阿利が舞をご披露させていただいております。曆の土・日・祝日が新月の場合は時により、古代舞靈研究所の舞踊手による「祈りのつどい」が開催されます。

満月会

満月の日は夜も明るく、太古の昔は華やいだ祭りの日でしたが、自然のサイクルが狂いがちな現代では、内省の日ではないかと考えます。旧曆一ヶ月の真ん中の日に、自らの身体を内観することで大いなる源とのつながりを再確認し、祈りとともに静かに過ごしましょう。